

平成28年度 東京都障害者虐待防止・権利擁護研修 従事者コース

演習

～現場での取り組み～

社会福祉法人JHC板橋会
レヂデンス虹 田口明美

自己紹介

現職：レヂデンス虹 世話人

(精神障害者グループホーム)

サービス管理責任者・管理者も兼務

団体：東京都精神障害者共同ホーム連絡会 副代表

経歴：精神障害者障害者通所施設 指導員 等

タイムスケジュール

13 : 30 ~ 14 : 00

田口 自己紹介

基本姿勢・チェックリスト
等の紹介

14 : 00 ~ 14 : 50

グループワーク 1 基本姿勢

14 : 50 ~ 15 : 05

—— 休憩 ——

15 : 05 ~ 16 : 00

グループワーク 2 事例検討

15 : 00 ~ 16 : 50

グループワーク 3 今後の課題

16 : 50 ~ 17 : 00

まとめ・補足

この演習で期待したいこと

○講義で得た知識を自分の事業所に引きつけて考える

○他事業所での取り組みを知り、視野を広げる

○現状に向き合い、これからのことを考える場

⇒自分の事業所のことは、なるべく正直に話しましょう

聞いた人は非難をせず解決策と一緒に考えましょう

○コミュニケーションの演習

基本姿勢

「利用者権利擁護ガイドライン」

『社会福祉施設・事業者のための規程集 2015年版(運営編)』
(社会福祉法人 東京都社会福祉協議会) より抜粋 原文はルビ付き

《利用者に権利を説明する文書》

1 個人の尊厳

ひとりの人間として、自由と平等のもと、ばかにされたり、差別されたり、どなられたり、大声で命令されたり、たたかれたりせずに、生きる権利をみんな持っています。

2 プライバシーの保護

ひとりの時間や生活を守ることができます。

知られたくないことを、聞かれたり調べられようとしたら、断る権利があります。

3 自己決定権

自分のことは自分で決められます。

「いやなものはいや」と自分の意志をはっきり言うことも大切です。

自分で決められない場合、いろいろ相談したり、情報をきくことができます。

4 財産権

自分のお金は、自分で使い道を決められます。自分でお金を管理できないときは、施設や施設以外の人に頼むこともできます。

家具や衣類などの持ち物も、自分で管理できます。他人が勝手に使ったりすることはできません。

5 市民権

地域のいろいろなサービスを利用したり、活動に参加することができます。選挙に参加できます。

6 不服の申し立て

いやなこと・こまったこと・意見を職員やオンブズマンに話し、解決にむけての話し合いを求めることができます。

「職員倫理規程」に基づく行動指針」

『社会福祉施設・事業者のための規程集 2015年版(運営編)』
(社会福祉法人 東京都社会福祉協議会) より抜粋

1 差別の禁止

- ① 子ども扱いするなど、その人の年齢にふさわしくない接し方はしません。
- ② 障害の程度・状態・能力・性別・年齢等で差別しません。
- ③ 利用者本人の前で障害の呼称・状態を表す用語を差別的に使いません。
- ④ 障害のために克服が困難なことを、本人の責任とするような発言はしません。
- ⑤ 利用者に対して、偏見や先入観をもって接することはしません。
- ⑥ 利用者の言葉や動作等の真似をしたり、利用者の行為を嘲笑したり、
- ⑦ 興味本位で接することはしません。

4 人権の尊重と対等な立場での支援、介護、援助

- ① 利用者と職員は対等な関係にあり、年齢にふさわしい敬称で呼び合うように努めます。
- ② 利用者に対して性的に不快にさせるあらゆるセクシュアルハラスメントに該当する行為及び該当するおそれのある行為をしません。
- ③ 利用者に対して交換条件を持ち出ししません。
- ④ 利用者が理解しやすい言葉や表現を使うように努めます。
- ⑤ 利用者の嫌がることを強要しません。

「施設・地域における障害者虐待防止チェックリスト」

（全社協「障害者の虐待防止に関する検討委員会」 平成23年度版）

C：職員セルフリスト

定期的にチェックを行い、管理者が把握していくことが重要

D：早期発見チェックリスト

利用者の変化から虐待の予兆を早期に発見する

グループワーク 1 (14:00~14:50)

○内容 チェックイン

- ・ 自己紹介 (1人× 分)
所属・キャリア・今の気分・日頃の気分転換法
- ・ これまでの講義の感想
- ・ 基本姿勢について

○役割分担を行う

- ・ 司会・記録・発表者・タイムキーパーは参加者から選ぶ

○いくつかのグループから発表

憩 休

グループワーク 2 (15:05~16:00)

事例検討

○次の事例を題材に議論する。

(事例①～④は関哉直人氏作成資料より転載。⑤、⑥は渡辺智生氏作成)

○事例が虐待にあたるのかどうか、問題点は？ 改善策は？

○もし、自分が担当者だったらどうするか.....

同僚が担当者でこのような状況だったら.....

○いくつかのグループから発表

グループワーク 2 事例①

- ◆ 26歳男性。触法により刑務所を出た後、実家で暮らしながら通所施設利用。
- ◆ 「一人暮らしがしたい」と話したことに対し、職員から「身の回りのことも十分できないのに外で暮らせるはずがないでしょ」「自分の立場が分かっているの」と言われる。
- ◆ 電車での一人旅を計画していたら、職員から「どうせ一人ではできないんだからやめなさい」と言われる。
- ◆ マンガの話をしていたので「マンガを読める立場じゃないでしょ」と言われる。

グループワーク 2 事例②

- ◆ 20代男性。入所施設で生活中。自閉症。
- ◆ 食事後、立ち上がらないことが多いので、移動のために強引に立ち上がらせることがある。
- ◆ 落ち着かないため他の利用者に危害を及ぼそうだったので、部屋の外から鍵をかけたことがある。
- ◆ 散歩中にたびたび道路に飛び出そうとするので、支援員が飛びついて押さえる、服をつかみながら歩く、両手首をつかんで歩くなどして施設に戻った。
- ◆ 近隣住民から、「非常に暴力的な姿を見た。囚人のように連れ回されていた。」と通報がなされた。

グループワーク 2 事例③

- ◆ 20代女性。通所施設利用中。企業就労が目標。
- ◆ とにかくおしゃべりで、仕事と関係のないことを話して注意され、他の人も迷惑している。
- ◆ これまで何度も説明しているが全く変化がない。
- ◆ 仕事に集中しなさい、という意味で、顔を後方両側からやさしく触れて前を向かせた。
- ◆ 仕事をしないならやめてもらっていい、と話し、作業を止めて座ってもらった。
- ◆ それでもしゃべるのを止めないので残りの時間は仕事場から出てもらい玄関で待ってもらった。

グループワーク 2 事例④

- ◆ 30歳代女性。デイサービス利用。
- ◆ 最近、食欲がないのか、なかなかご飯を食べない。少しやせてきていて心配。お米を食べないので、少しでも食べて欲しいと思って口元にスプーンで押し入れる。そろそろ訓練の時間に入るなので、間に合わせたい。
- ◆ 「はい、食べてください」「お口開けて」「はい、かんで」とだんだん声が大きくなる。他の利用者もその声を聞いてこちらを見ている。
- ◆ 食事あまり残すと職員も親御さんも心配するし、時間通り行動しないと何より本人が不安定になるので、致し方ない。

グループワーク 2 事例⑤

- ◆ 40歳代男性。グループホーム入居。
- ◆ 生活保護を受給しているが、受給日にまとめて使ってしまいうことがあり、ケースワーカーとも相談して、グループホームで生活費を預かり、1週間ずつ渡すことにしている。
- ◆ 本人から「お金を貯めたいから、1週間分の生活費を少なくしたい」と言われ、その通りにした。
- ◆ 本人から「貯まったお金でパチンコに行きたい」と言われたが、グループホーム職員は「生活保護のお金をギャンブルに使うことは許せない」と渡すことを拒否した。
- ◆ 本人は、自治体に苦情を申し出た。

グループワーク 2 事例⑥

- ◆ 30歳代男性。通所施設利用。
- ◆ 軽度の知的障害で、障害者の扱いをされることを嫌う。
- ◆ 同じ施設の女性利用者数人と仲良くなり、個別に連絡をとったり、数人で休日に遊びに行くようになる。そのうち一人の女性利用者の体調が不安定になり、施設を休みがちになる。
- ◆ 施設職員は、女性利用者の不調は男性の影響が強いと判断し、他の女性も含めて交際をやめるよう強く求める。女性には交際をよく考えるように促す。
- ◆ 男性利用者はそれに反発し、施設をやめる。女性利用者の体調は改善せず。

グループワーク 3 (16:00~16:50)

今後の課題

○虐待防止のために、今後、自分の事業所で必要なことは何か？ 今後の課題を議論する。

例) 職員の研修、支援力の向上

他機関との連携、規程等の作成と運用

職員間のコミュニケーション

苦情解決体制、オンブズマン制度の活用 など

○チェックアウト (感想 1人×30秒)

補足...事業所に戻ってから

○職場での報告、研修

参照：厚労省「障害者福祉施設等における障害者虐待の防止と対応の手引き」

『職場内研修用冊子』

http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/shougai/shougai_shisaku/gyakutai_kenri_yougo/gyakutai_taiou.files/fukushishisetu.pdf

○区市町村の虐待防止体制の確認（窓口、担当者）、 法人研修で活用

○地域の連絡会等への積極的な参加と虐待防止の普及 (今日来ていないところへ...)

おつかれさまでした

ご協力ありがとうございました